

# 道

2024・12・11

通信 No 1810



ツ  
ワ  
ブ  
キ

◆今日の練習 6時30分～ 岡野中学 小坂先生・二宮先生  
ソフィアの子守歌 その他の楽譜全て持参

◆次回12月18日の練習 6時30分～ 岡野中学音楽室 清水先生お休み 小坂先生  
心さわぐ青春のうた ブオルガの舟曳歌 他全ての楽譜持参

## 【12月14日(土) 道コン・忘年会のスケジュールについて】

実施場所 ビエラストジオ蒔田 13時～17時 (地図は先週号に掲載済)

道コン 13時～ 14時30分 (リハーサル) 参加予定グループ 12組 ピアノ使用グループ 5組  
14時30分～16時30分 本番とうたごえ

忘年会 17時30分～19時30分 松島旅館料理処・松風苑 (アルト2担当)

注意点 リハーサルの人はお互い調整してピアノを使用してください

## ソフィアの歌 —チラシの絵—

この数ヶ月56周年チラシの絵をどうしようか迷っていました。56周年のテーマは何なのか？  
「心騒ぐ青春の歌」がある。ならば「青春」を描く？

サミュエル・ウルマン「青春の詩」によれば、青春とは「人生のある期間ではなく心の様相を意味している」と言う。ん？難しい。青春は絵で表現できない。

そんな時石田さんが「ソフィアの歌」は船頭大国屋光太夫が難破してロシアに連れていかれ、帰国する時に持ち帰った恋の歌と「道」通信に寄稿されていました。はて？光太夫は船頭だったっけ。船頭って高田屋嘉兵衛の話ではなかったかしら。疑問が湧き、あらためて五木寛之「ソフィアの歌」を読んでみました。わかったのは、大国屋光太夫は伊勢白子の船頭で石田さんが正しかった。高田屋嘉兵衛は廻船問屋で、ゴローニン事件(1811年)の時カムチャッカに連行されるが、日露交渉の間に立ち事件解決に導いたと言われています。

というわけで「ソフィアの歌」を読んでいると目に飛び込んできたのが「酒は国境を超える」というフレーズでした。実は五木寛之さんはNHKの「歌は国境を超える」という番組の取材でサンクトペテルブルクを訪問していました。ホテルで無聊をかこっている時に飲んだのがツナンダーリのワインでした。ツナンダーリはワイン発祥の地で大変高級な代物です。ヤルタ会談の時チャーチルはウイスキーでなくアルメニアのコニャック、スターリンは生まれ故郷のツナンダーリのワインを飲んだということで“酒は国境を超え”たのだそうだ。

これだ!! 今回のチラシはこれにしよう。

私以前ジョージアのツナンダーリを訪れワイナリーを訪問し、ワインを購入しました。記念にラベルを保管していたのでこのラベルを背景に、前面にジョージアの果物「ザクロ」、横にはみなとみらいで購入した瀬戸物に入ったワインを配置しました。56周年とは直接関係ありませんが、めぐりめぐってこうなってしまうかもしれません。ご勘弁を。(B: 朝倉久)